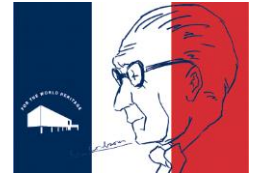


世界遺産登録推進NEWS



国立西洋美術館を世界遺産に！
For The World Heritage!



【発行】2014(平成26)年8月 台東区世界遺産登録推進室 TEL03-5246-1082

ホームページ二次元コード
(スマートフォン対応) ⇒



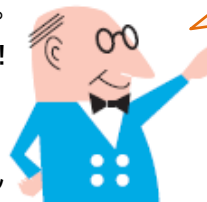
生涯学習センターでパネル展を開催しています！

7月25日(金曜日)から8月20日(水曜日)まで、台東区生涯学習センター(台東区西浅草3-25-16)1階アトリウムにて、「国立西洋美術館を世界遺産に！」をテーマとしたパネル展示を開催しています。

今回のパネル展では、建築家ル・コルビュジエのプロフィールや建築のキーワード、国立西洋美術館の建築上の見どころ、世界遺産とは何かなどについて、お子さんにもわかりやすく紹介しています。

また、DVD「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」の放映、各種パンフレット等も設置しています。

この機会にぜひお立ち寄りください！



コルビおじさん

ぜひ
見に来てね！



パネル展の様子

活動報告

下町七夕まつりパレード & うえの夏まつりパレードに参加しました！

7月5日(土曜日)に開催された、かっぱ橋本通りでの「第27回下町七夕まつりパレード」及び7月19日(土曜日)に開催された、上野中央通りでの「第31回うえの夏まつりパレード」に、横断幕や幟旗などを持って参加しました。

うえの夏まつりパレードでは、片山さつき参議院議員とともに上野中央通りを行進しました。

両日とも、沿道の多くの方々に国立西洋美術館の世界遺産登録実現に向けたPRを行いました。



下町七夕まつりパレードの様子



うえの夏まつりパレードの様子

今後の活動予定

<パネル展示>

期間 9月20日(土)～10月30日(木)

場所 JR上野駅 Break ステーション
ギャラリー2階

<イベント参加>

●谷中まつり

日程 10月11日(土)、12日(日)

●かっぱ橋道具まつりパレード

日程 10月13日(月・祝)

<世界遺産区民講座>

「ル・コルビュジエ建築の
日本への影響(仮)」

日程 10月もしくは11月開催
予定

場所 国立西洋美術館

※上記は予定であり、変更される可能性があります。

**第 38 回世界遺産委員会が開催されました！**

6月15日(日曜日)から6月25日(水曜日)まで、カタール王国の首都ドーハにて、第38回世界遺産委員会が開催されました。

今回の世界遺産委員会では、新たに26件(文化遺産21件、自然遺産4件、複合遺産1件)の世界遺産が登録されました。これにより、世界遺産の総数は1,007件(文化遺産779件、自然遺産197件、複合遺産31件)になりました。

※総数は右図のとおり

2014年6月末時点の
登録件数(件)

文化遺産	779
自然遺産	197
複合遺産	31
合計	1,007

◎日本から「富岡製糸場と絹産業遺産群」が新たに文化遺産として登録されました！

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、長い間生産量が限られていた生糸の大量生産を実現した「技術革新」と、世界と日本との間の技術の「交流」を主題とした近代の絹産業に関する遺産です。

日本が開発した生糸の大量生産技術は、かつて一部の特権階級のものであった絹を世界中の人々に広め、その生活や文化をさらに豊かなものに変えました。19世紀後半の大きな建築物群は、和洋折衷という日本特有の産業建築様式の出現を示す卓越した事例です。



〔画像提供〕富岡市・富岡製糸場

近代の産業遺産としては国内初の登録であり、これにより日本の世界遺産は文化遺産が14件、自然遺産が4件、合計18件になりました。

次回の世界遺産委員会は、来年2015年6月28日から7月8日まで、ドイツ連邦共和国の都市ボンにて開催予定で、日本から推薦されている「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、山口県、岩手県、静岡県)も審議される予定です。

展覧会のお知らせ

◆大成建設ギャラリー・タイセイにて「ル・コルビュジエと飛行機 - Le Corbusier and <Aircraft> -」展を開催しています。

*開催期間：2014年7月10日(木曜日)から2015年1月31日(土曜日)まで

※木・金・土曜日のみ開館(日～水曜日、8/14～16、12/6、12/25～1/3は休館。

また、臨時休館の場合がありますので、ホームページでご確認ください)

*20世紀を代表する建築家ル・コルビュジエ(1887～1965)にとって、飛行機はただの乗り物以上に彼の活動にインスピレーションを与えるものでした。彼は「飛ぶ」という目的のために研ぎ澄まされた飛行機の技術を称賛し、飛行機のイメージを建築に取り込みました。また、飛行機に乗り込んで、空から俯瞰することによって得られた新たな視点を、都市計画に生かしました。

ル・コルビュジエが著書『AIRCRAFT』(1935)を出版してから80年が経つ今、本展では、20世紀初頭から1930年代にかけての飛行機の歴史を振り返りながら、ル・コルビュジエと飛行機の関わりと、飛行機に影響を受けた美術、文学作品などを紹介しています。この機会にぜひご覧ください。

詳しくはこちら(大成建設ギャラリー・タイセイホームページ)

⇒<http://www.taisei.co.jp/galerie/index.html>

